

\* H26年6西病棟  
医療安全の取り組み



**H25年からH26年の  
スリッパ撃退大作戦の巻**



\* スリッパは転倒のはじまりでござる

外来で靴の着用を指導していただきましたが、  
スリッパで入院生活を送っておられる患者が多かった

✓なぜ、スリッパがはびこるのか??

✓どうしたら靴を着用してくださるのか!!



なにか対策を立てる  
必要があるない!!

# \* 履物をチェックするの巻



## ✪ 平成25年10月～平成26年4月まで ✪

拙者たち(看護師)がやること

- 入院患者の履物をチェック 毎週水曜日

協力を依頼したこと

- スリッパを着用している患者には、転倒リスクを指導し、靴の着用を促した
- 履物チェックした結果を病棟スタッフに共有し、靴へ変更されたか随時確認し、患者に働きかけた

初回調査結果 靴着用率が**38%** スリッパ着用率が**61%**

スリッパが幅をきかせている、危険な状態であった



# \*履物をチェックするの巻

1か月後調査結果 靴着用率が**82**% スリッパ着用率が**17**%

なんと1か月で靴着用率がこんなに**UP**したのだった **ニンニン!!**



指導が実を結び、患者参画してもらえたことで、その後も靴着用率は

**80**%台をキープできた!!



# \* 履物をチェックするの巻

転倒件数・・**34件** ほぼレベル1が多く、レベル3b以上はなし

- ・発生時刻20～22時と、食事前後が多い
- ・下肢筋力の低下から、しいもちをついた事例が多い
- ・ナースコールすることに抵抗があつたり、油断される傾向あり
- ・靴を着用していなかったことが、直接の原因はではない

- ・食事前後や、寝る前は、焦るべからず！！
- ・筋力のアセスメントをするのじゃ！！
- ・ナースコールの遠慮は無用じゃ！！



# \*きちんと履けているか チェックするの巻

✳平成26年4月～平成26年10月まで✳

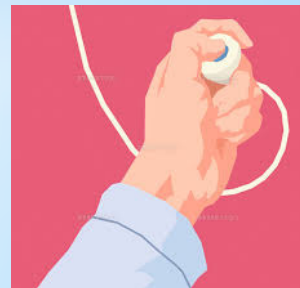
拙者たち(看護師)がやること

- 入院患者の履物をチェック 月1～2回
- 履物チェックした結果を提示
- 食事前後は特に患者の動線を考えた環境整備



協力を依頼したこと

- スリッパ患者には転倒リスクを指導を継続
- 履きなれていないクローズは履きなれたものへチェンジ
- 靴のかかとを踏んで履かないように働きかける
- 合言葉は『あらっ』と思ったらナースコールを！！



# \*きちんと履けているか チェックするの巻

✦平成25年10月～平成26年4月まで✦

褒めてくれますか

靴着用率が**80～100**%をキープ



～靴着用率は上昇してきたため、靴の内容を評価するでござる～

履きなれないクロックスの着用や、かかとを踏んだ靴で歩行されることがあった。

なぜ、履きなれた靴が安全なのかを患者に指導を開始した



クロックス率の低下やかかとを踏んで歩行  
されている患者も徐々に**低下**していった

# \*きちんと履けているか チェックするの巻

転倒件数・・**32件** レベル2がほとんどで、1件だけレベル3a

- 発生時刻20～22時と、食事前後が多い
- 下肢筋力の低下から、しいもちをついた事例が多い
- ナースコールすることに抵抗があつたり、油断される傾向あり
- 不穩患者の件数が多い
- 靴を着用していなかったことが、直接の原因はではない



- 食事前後や、寝る前は、焦るべからず！！
- 筋力のアセスメントをするのじゃ！！
- ナースコールの遠慮は無用じゃ！！
- 不穩時の薬剤使用時には要注意じゃ！！





# \* 履物チェックから見えてきたこと

履物チェックを開始して転倒の危険因子として、脱げやすい履物から、歩行しやすい靴へ変更するために、患者に歩行時の安全性を指導できるようになりました。私たちの働きかけだけでは残念ながら、目に見えた変化として転倒件数減少や、患者への弊害の低下につなげることができませんでした。私だけでは転倒を防ぐのは限界があることを痛感しました。

入院すれば少なからず **筋力は落ちます**

転倒・転落は、**40代**でもこける時はこけます

**決して他人事ではありません**





# みなさんにお願 いたいでござるの巻



## だからこそ

- 安全に歩行しやすい靴を選んで入院準備しましょう
- 入院中でも筋力を低下させないように歩きましょう
- 自分は関係ないと思わないで！
- いつもと違うと感じたらナースコールを遠慮せずにおしま  
しょう

**みなさんの協力が必須です。**

**よろしくおねがいします ニンニン**

